

## 静岡 第16隊

隊長 奈木真由美（浜松30団）

今回のジャンボリー参加は、浜松30団自隊だけでの一個隊編成となり、人的、物的両面において経験が乏しく、不安な面があった。

隊長以外は全員ジャンボリー参加が初めてであり、また長期野営も経験がないというものだった。最初は果たしてどうなるかと思われたが、少ないリーダーで協力しあい、周りの隊とも交流し、知恵を貸していただきながら、日々勉強の毎日だった。

サイトは、自隊のみということもあり、もめごともなく、スカウト同士が班内で協力して炊事や工作をしていた。班同士の競い合いも見られて、良い意味で班同士が刺激しあいながら過ごしていた。

プログラムの参加は、班によって積極性にばらつきがみられたが、アワードの取得はほぼ全員ができた（途中参加スカウト1名アワード取得できず）。またジャンボリーゲームでは日本一を獲得することができた。

他県のスカウトや外国スカウトとの交流に積極的で、スカウト同士で交流会を呼びかけ開催することもできた。交流会もすべてスカウトが企画進行をして、リーダーから見ても頼もしく思えた。資材の少ない中でのサイト設営だったが、事前訓練の成果もあり、設営は比較的順調で、サイト内は質素だが快適に過ごすことができた。

食事に関しは、支給された食材を残すことなくほとんど食べきり、体調不良を起こすものはいなかった。班内炊事の際、白米の量を加減して計算している姿が見られた。

年少のスカウトについては体力がなく、また酷暑の中の生活ということで疲れも見られたが、大きな問題はなかった。

事故もけがもなく最終日を迎えることができたことに何よりほっとした。

自隊だけで、ジャンボリーをやり切ったことはわが団にとってかけがえのない経験となり、また隊として自信もつけることができた。

リーダーとして参加してくれた16隊もメンバーに感謝するとともに、わが隊に力を貸してくれた他の静岡県の隊やリーダーに感謝したいと思う。

そして、スカウト全員が4年後の日本ジャンボリーにまた参加すると言ってくれたことが何より一番の良い思い出となった。